

埼玉県環境建築住宅賞2009 住宅部門 作品集



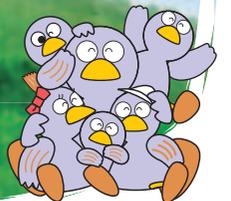
これからさきも、
ずっと。

地球温暖化防止など、環境に負荷が少ない
住まいづくりが求められています。

そこで、環境にやさしい

住まいづくりを進めるため、

工夫やアイデアに富んだ住宅を顕彰します。



ごあいさつ

埼玉県は交通網が発達し多様な産業が集積する一方、豊かな田園環境にも恵まれています。チャンスにあふれた都市の魅力とゆとりある田園の魅力とを併せ持ったところといえます。

県では、こうした特色を生かした快適でゆとりあるまちづくり、住まいづくりを進めています。待ったなしとなっている地球温暖化防止のためには、環境に負荷の少ない住まいづくりも重要です。

そこで、このたび環境にやさしい住まいづくりを推進するため、「埼玉県環境建築住宅賞」を創設しました。

住宅部門に応募いただいた作品には、省エネルギー化の新しい技術が生かされているだけでなく、光と風を取り入れ、自然とともに暮らす心地よさが伝わってくるような住まいが多かったことが印象的です。私も是非住んでみたいと感じました。

私はこのような環境に優しい住宅が増えていくことで、二酸化炭素の排出削減も進むものと期待しています。一人一人の小さな行動を地道に積み重ねることが地球温暖化防止に繋がります。

この環境建築住宅賞をきっかけに、是非、県民の皆様に環境にやさしい住まいづくりやまちづくりに関心を持っていただきたいと思います。

皆様の一層の御支援と御協力をお願いいたします。



埼玉県知事
上田 清司



埼玉県環境建築住宅賞(委員長総評)

第1回埼玉県環境建築住宅賞には全部で52作品の応募があった。

審査に当たって、応募作品が、何れも既に建築され実在する住宅であることに鑑み、全て記名作品として取り扱った。また、審査の過程で、環境問題に対する姿勢を、供給側(設計者或いは建設会社)の積極的な取組みを啓蒙意欲と捉えそこに重点をおいて評価するか、需要側(施主或いは使用者)の積極的な取組みを参加意欲と捉えそこに重点をおいて評価するかで議論になったが、協議の結果、今回は、後者をより積極的に評価するという事で合意に至った。最優秀案は何れもこの合意に基づく評価である。

審査は、予め以下の様な手順を私が提案し、委員各位の合意を得て進められた。

1) 1次審査

各審査委員が上位10作品を選定する

集計の上、上位10案については無条件で、第2次審査に進める

上記以外で、各審査委員が検討に値すると考える作品を提案し審議の上、最大6作品を加える

2) 第2次審査

第2次審査対象作品の全てを、全員で審査し、各審査委員が上位5案を選定する

上位4案については無条件で、最終審査に進める

上記以外で、各審査委員が検討に値すると考える作品を提案し審議の上、最大3作品を加える

3) 最終審査

最大7案から、最優秀賞1点・優秀賞4点の入賞を目標に絞り込みを行う

4) 一般投票にて1位となった作品の扱い

その作品が、上記入賞作品に含まれなかった場合には、これを、「特別賞」として選び、入賞作品に含まれていた場合には、重賞として扱うということにする

審査の結果、冒頭に述べた経緯もあり、最優秀案2点、優秀案4点という結果になった。

埼玉県環境建築住宅賞2009 審査委員会

委員長 内田 祥士

埼玉県環境建築住宅賞2009(住宅部門)の流れ

- 審査委員会 ● 平成21年 5月 19日 (募集要項の決定)
- 募 集 ● 平成21年 7月 1日～9月25日 (応募作品:52作品)
- 一 般 投 票 ● 第1回10月23日 } (投票総数1,370票)
第2回11月28日及び29日
- 審査委員会 ● 平成21年12月 7日 (作品審査)
- 表 彰 式 ● 平成22年 2月 8日

目 次

| | |
|-------------------------------|-----|
| ごあいさつ | 1p |
| 審査委員長総評 | 2p |
| 埼玉県環境建築住宅賞2009(住宅部門)の流れ | 2p |
| 最優秀賞「草屋根と雨水の恵みの家」 | 3p |
| 最優秀賞「環境配慮と居住快適性を高いレベルで両立させた家」 | 5p |
| 優秀賞「望楼の家」 | 7p |
| 優秀賞「加須の二世帯住宅」 | 8p |
| 優秀賞「クヌギの家」 | 9p |
| 特別賞「エアコンなしで過ごす家」 | 10p |
| 応募52作品一覧 | |
| ●通風に配慮した作品 | 11p |
| ●省エネ設備を活用した作品 | 12p |
| ●様々な自然エネルギーを活用した作品 | 13p |
| ●緑化や木材利用に配慮した作品 | 14p |



草屋根と雨水の恵みの家



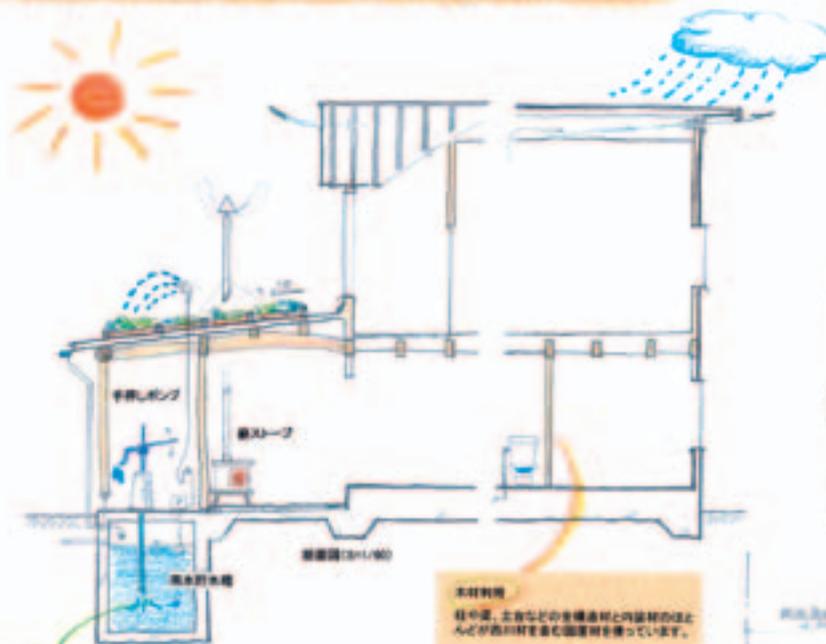
屋根緑化の概要 23㎡(20帖)
 ローコストで容易に実現でき、リサイクル可能な材料で作り直した。
 耐火性の高いFRP(リウム繊維)で屋根の防水性を確保した上で木枠の土留めをせ、リサイクル素材の緑化層と排水土留めを設け、
 数週に一回ヤシム・草水層のケアを行うだけでメンテナンスが楽なことで、その需要に合った品種を販売しながら取組む計画です。
 水やりは基本的に不要ですが、乾燥時には定期的な水やりを必要としています。
 自動灌水は便利ですが、取入て自然の恵みを感じるライフスタイルを築くため、養生自ら水遣りをするようにしました。

パッシブソーリング

西日による過度な暑さを防ぐため、下層を大きく影にして涼しく保てるように屋根裏の緑化の土が全層屋根の温度を下げ効果。



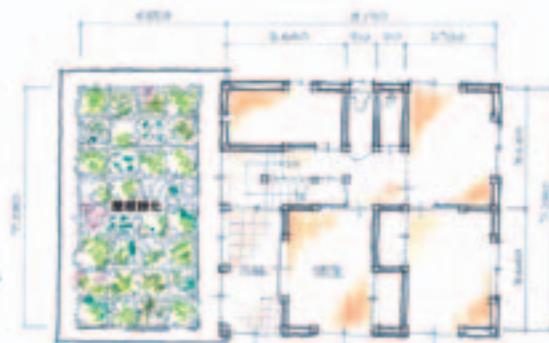
薪ストーブ
 石造に耐えらぬ自然エネルギー利用の促進および健康増進。



木材利用
 柱や梁、土台などの骨格材と内装材のほとんどが西川材産産物(国産材)を使っています。

自然素材利用
 漆喰をはじめ、粘土や和紙、大工道具などで作られた自然素材を使うことで、化学物質による環境汚染と健康時の汚染を防ぎます。

雨水利用
 地下の雨水貯水槽の貯水量は13㎡ (4.25㎡x3.05m)
 屋根面積126㎡と年間降水量、洗濯機使用から計算した適量貯蓄としました。
 平均1日204Lの雨水をトイレや洗濯、散水に使うことができます。





外観



玄関の軒下

タイトル

草屋根と雨水の恵みの家

講評

屋根の緑化、雨水ポンプの設置、県産材使用、薪ストーブなど、可能な限り、自然の熱と力を活かした住まいづくりが高く評価された。また、植栽への水やりなど、居住者自らがかわり、地域コミュニティを育む拠点として機能している点も魅力的である。自分で工夫しながら省エネで環境負荷の小さい快適な生活を楽しむ住み手の姿勢が高い評価を得た作品である。

データ

所在地 ■さいたま市
構造・階数 ■木造・2階
敷地面積 ■224.36㎡
延床面積 ■145.74㎡
建築面積 ■92.74㎡

完成年月 ■平成19年2月

総工事費 ■非公表

居住者構成 ■非公表

設計者 ■レインファーム一級建築士事務所(担当者:保坂 有吉子)

施工者 ■(有)池田建築事務所

住まい手から一言

夏は風通しのよい設計と、土間、草屋根、雨水ポンプなどの効果で涼しく、エアコンを必要としません。冬は日当たりがよく床、台所調理台、洗面台など木で作られているので、冷たさを感じません。お陰で、車椅子利用の友人達や親しい人々の集いの場になっています。人は自然の光と風が本来心地よく、ほっとするようです。経済的にも精神的にも、体にも有り難く、気持ちよく暮らしています。



大地に根をおろし 太陽と共に生きる



環境配慮と居住快適性を高いレベルで両立させた家

1. 自然の恵みを余すことなく活かす工夫

設計：紀尾丸大介(株)ボラス暮らし科学研究所 + ボラテック(株)設計部
施工：ボラテック(株)

断熱性能

建築主の設計意図は、自然環境の恵みを最大限に活かすこと。そんな意図を実現するために、自然の恵みを最大限に活かすための断熱性能を確保する。その断熱性能を確保するために、断熱材を最大限に活かすこと。その断熱性能を確保するために、断熱材を最大限に活かすこと。その断熱性能を確保するために、断熱材を最大限に活かすこと。

断熱性能向上

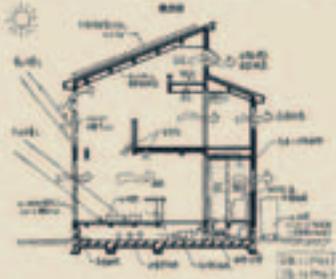
断熱性能向上のために、断熱材を最大限に活かすこと。その断熱性能を確保するために、断熱材を最大限に活かすこと。その断熱性能を確保するために、断熱材を最大限に活かすこと。

断熱性能向上の工夫

断熱性能向上のために、断熱材を最大限に活かすこと。その断熱性能を確保するために、断熱材を最大限に活かすこと。その断熱性能を確保するために、断熱材を最大限に活かすこと。

断熱性能

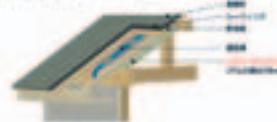
断熱性能向上のために、断熱材を最大限に活かすこと。その断熱性能を確保するために、断熱材を最大限に活かすこと。その断熱性能を確保するために、断熱材を最大限に活かすこと。



2. 省エネを実現する数々の取り組み

断熱性能

断熱性能向上のために、断熱材を最大限に活かすこと。その断熱性能を確保するために、断熱材を最大限に活かすこと。その断熱性能を確保するために、断熱材を最大限に活かすこと。



断熱性能向上の工夫

断熱性能向上のために、断熱材を最大限に活かすこと。その断熱性能を確保するために、断熱材を最大限に活かすこと。その断熱性能を確保するために、断熱材を最大限に活かすこと。

断熱性能向上の工夫

断熱性能向上のために、断熱材を最大限に活かすこと。その断熱性能を確保するために、断熱材を最大限に活かすこと。その断熱性能を確保するために、断熱材を最大限に活かすこと。

断熱性能向上の工夫

断熱性能向上のために、断熱材を最大限に活かすこと。その断熱性能を確保するために、断熱材を最大限に活かすこと。その断熱性能を確保するために、断熱材を最大限に活かすこと。



断熱性能向上の工夫

断熱性能向上のために、断熱材を最大限に活かすこと。その断熱性能を確保するために、断熱材を最大限に活かすこと。その断熱性能を確保するために、断熱材を最大限に活かすこと。

断熱性能向上の工夫

断熱性能向上のために、断熱材を最大限に活かすこと。その断熱性能を確保するために、断熱材を最大限に活かすこと。その断熱性能を確保するために、断熱材を最大限に活かすこと。

3. 測定実績

断熱性能

断熱性能向上のために、断熱材を最大限に活かすこと。その断熱性能を確保するために、断熱材を最大限に活かすこと。その断熱性能を確保するために、断熱材を最大限に活かすこと。



断熱性能向上の工夫

断熱性能向上のために、断熱材を最大限に活かすこと。その断熱性能を確保するために、断熱材を最大限に活かすこと。その断熱性能を確保するために、断熱材を最大限に活かすこと。

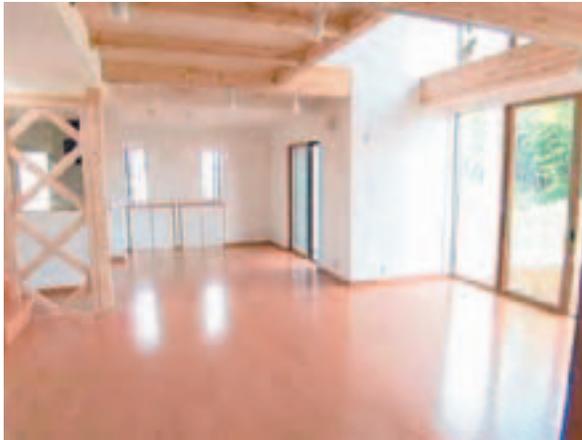
断熱性能向上の工夫

断熱性能向上のために、断熱材を最大限に活かすこと。その断熱性能を確保するために、断熱材を最大限に活かすこと。その断熱性能を確保するために、断熱材を最大限に活かすこと。

| | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|-----|-----|--------|-----|------------|------|----|----|----|----|-------|---------|------|-----------|
| 建築物の名称 | 紀尾丸 | 建築主 | 紀尾丸 大介 | 所在地 | 埼玉県さいたま市緑区 | 建物概要 | 構造 | 木造 | 階数 | 2階 | 延べ床面積 | 166.17㎡ | 竣工年月 | 平成 17年 7月 |
|--------|-----|-----|--------|-----|------------|------|----|----|----|----|-------|---------|------|-----------|



外観



内観



内観

環境配慮と居住快適性を高いレベルで両立させた家

タイトル

講評

極めて深い専門的な知識を背景に抜群の省エネ、低CO₂を実現している。夏涼しく冬暖かいことは室内気温実測データで示されており、その環境性能をきちんと説明している点も高く評価できる。また、省エネのライフスタイルを家族で楽しんでいる様子が伝わってくる作品である。

データ

所在地 ■さいたま市
構造・階数 ■木造・2階
敷地面積 ■215.00㎡
延床面積 ■168.17㎡
建築面積 ■103.13㎡

完成年月 ■平成17年7月
総工事費 ■約3,200万円
居住者構成 ■15歳未満:2人、15歳以上65歳未満:2人
設計者 ■ポラテック(株)ポウハウス一級建築士事務所
(株)ポラス暮らし科学研究所(担当者:松岡 大介)
施工者 ■ポラテック(株)

住まい手から一言

〈施主(夫)兼設計者の所感〉

主寝室では、たいてい開けているウォークインクローゼットを含めると12帖にもなる部屋に、思い切って6帖用のエアコンを入れましたが、暖冷房共に十分でした。家全体として夏場は風通しがよく、冷房を殆ど使わずに済んでいます。

驚いたのは家族の生活意識が変わったことです。省エネを極めた家である事は、家作りの過程で十分伝わったようで、食器洗浄機や洗濯機などはタイマーで深夜電力の時間帯に使ったり、ブラインド内蔵サッシについても、冬の朝は全開にして日射をふんだんに取り入れ、夜は閉めたり、夏は角度調整で日射を遮蔽したりという生活を面倒がらずにやってくれています。

ちなみに、写真に写っているウッドデッキは、建築中の廃材と私が勤め先の実験の廃材で、私自身が作ったものです。

〈妻の所感〉

一年を通じて、夏は風通しが良く、涼しく、冬は暖かい家だということを実感しています。共働きの家族で、私が誰もいない家に帰って来ますが、夏は南面窓のオーニングとロフトの窓を半開きロック状態にしておくと、家中ムットとする感じはありません。また、洗濯では楽にお風呂の残り湯を使え、朝5時頃に洗濯しているのですが、冬でもお湯が暖かく、洗剤が良く溶けて洗濯物がきれいになっている感じがします。それから、太陽光発電の売電額は月8,000円程度も戻ってくるので有り難いです。



望楼の家



データ

- 所在地 ■ 児玉郡美里町
- 構造・階数 ■ 木造・2階
- 敷地面積 ■ 977.6㎡
- 延床面積 ■ 84.0㎡
- 建築面積 ■ 81.9㎡
- 完成年月 ■ 平成18年8月
- 総工事費 ■ 約 2,860 万円
- 居住者構成 ■ 65歳以上:2人
- 設計者 ■ (株)岩村アトリエ
(担当者:岩村 和夫)
- 施工者 ■ 横尾建設(株)

住まい手から一言

週末住宅として建てたこの建物は、周辺環境と室内が連続的にデザインされていることによって、手入れした庭を身近に感じることができます。また、自然の風通しを考慮しているため、どの部屋にいても心地よい風が通り快適な時間を過ごせます。特に、この建物の特徴である望楼は、周辺地域の山を見渡せる場所としての機能と、換気棟としての機能を併せ持ち、私の要望と設計者の工夫が形になったところです。

講評

見晴らし台と換気塔の機能を合わせ持った望楼があるこの家は、単なる生活住居である以上に楽しむための要素と省エネルギーを同時に実現した意欲作で、最も魅力的な建築的解法を提示した作品であった。最後まで、最優秀候補であったが、審査の中で、

作品としての完成度を評価するか、参加型の作品を評価するかという議論があり、その課程で、今回は参加型をより積極的に評価しようとの合意が形成され、優秀賞となった。

加須の二世帯住宅

加須の二世帯住宅

この二世帯住宅は、加須市の中心部に位置する。周囲には伝統的な木造住宅が点在し、地域の歴史と文化を感じさせる環境に囲まれている。この二世帯住宅は、既存の古民家をリノベーションし、現代的な生活機能と伝統的な美観を兼ね備えた設計となっている。

■ 環境への配慮 1 自然の光
 自然光を取り入れることで、室内を明るく保ち、省エネを実現している。天井には高天井を採用し、自然光を効果的に取り入れることで、室内を明るく保ち、省エネを実現している。

■ 環境への配慮 2 「透ける棟飾り」と「縦貫」の構成
 伝統的な透ける棟飾りや、縦貫の構成を採用し、自然光を取り入れ、省エネを実現している。また、伝統的な透ける棟飾りや、縦貫の構成を採用し、自然光を取り入れ、省エネを実現している。

■ 敷地環境
 敷地環境を整えることで、快適な居住環境を実現している。また、敷地環境を整えることで、快適な居住環境を実現している。






■ 外観から内部の環境へ
 外観から内部の環境へとつながる設計。伝統的な透ける棟飾りや、縦貫の構成を採用し、自然光を取り入れ、省エネを実現している。

■ 自然素材
 自然素材を採用し、健康と快適な居住環境を実現している。また、自然素材を採用し、健康と快適な居住環境を実現している。

■ 縦貫を引継ぐ
 縦貫の構成を採用し、自然光を取り入れ、省エネを実現している。また、縦貫の構成を採用し、自然光を取り入れ、省エネを実現している。

■ 透ける棟飾り
 透ける棟飾りを採用し、自然光を取り入れ、省エネを実現している。また、透ける棟飾りを採用し、自然光を取り入れ、省エネを実現している。

■ サステナブルな、住み手の健康
 サステナブルな設計を採用し、住み手の健康と快適な居住環境を実現している。また、サステナブルな設計を採用し、住み手の健康と快適な居住環境を実現している。





データ

- 所在地 ■ 加須市
- 構造・階数 ■ 木造・2階
- 敷地面積 ■ 1877.37㎡
- 延床面積 ■ 246.35㎡
- 建築面積 ■ 156.14㎡
- 完成年月 ■ 平成20年12月
- 総工事費 ■ 非公表
- 居住者構成 ■ 15歳未満:2人
15歳以上65歳未満:3人
- 設計者 ■ アトリエ・リングー級建築士事務所
(担当者:永田 博子・青山 恭之)
- 施工者 ■ 岩瀬建設(担当者:岩瀬 弘幸)
(株ネギシ(担当者:根岸 操)

住まい手から一言

先祖代々から受け継ぎ、自分が生まれ育った古い家は、思い出もたくさんあった大切なものでした。ただ、老朽化が進み、家族構成の変化もあって、建て替えることになりました。そこで、家の敷地や、まわりの家々と共にある環境を大切にしたいと、エネルギーにも配慮した計画を、設計者に求めました。さらに、かつての家は暗かったので、明るい空間を。また、猫や犬と共生できるようなしなやかな空間も求めました。

思いどおりの家が出来上がり、1年の4分の3ほど住んでみて、冬も夏も快適に生活ができています。太陽のエネルギーを、熱や電気として頂いているので、環境に対して、謙虚な気持ちが深まりました。子どもたちも、そんな気持ちで育ってくれたらと思います。また母も、古い家の材料や建具を部分的にでも使ってもらって喜んでます。夕方、車で仕事から帰って来る時、遠くから、腰屋根部分にもれる光が見えると、我家に帰ってきた実感が沸き、暖かい気持ちになれる家です。

講評 地域に伝統的な透ける棟飾りをモチーフにした換気窓や、古い家の部材や建具を取り込んだり、古い家が持っていた周囲環境と家の関係をうまく継承しながら、古い家では暗かったという室内を明るく改善し、太陽の恩恵をPVC(太陽光発電)とパッシブソーラー

で受け止め、快適な室内環境と省エネルギーを実現しており、埼玉の風土にじっくりなじんだ好感が持てる作品である。

クヌギの家

データ

- 所在地 ■ 幸手市
- 構造・階数 ■ 木造・2階
- 敷地面積 ■ 303.9㎡
- 延床面積 ■ 109.7㎡
- 建築面積 ■ 89.0㎡
- 完成年月 ■ 平成20年11月
- 総工事費 ■ 約 2,500 万円
- 居住者構成 ■ 15歳未満:1人
15歳以上65歳未満:2人
- 設計者 ■ オーガニック・スタジオ(株)
(担当者:三牧 省吾)
- 施工者 ■ オーガニック・スタジオ(株)
(担当者:三牧 省吾)

クヌギの家

みどりがつなぐ 人と街
けやきエコヴィレッジ

Organic Studio
オーガニック・スタジオ株式会社



Concept

暮らしの自然環境の中を築く。そんな環境を享受する為には、まず、自然環境からデザインするといふ、従来の設計の考え方から脱却する必要があります。まずはじめに、カラーに頼らない自然環境の活用、特に木による美観の活用が第一となります。その上、木の質感が生活に馴染むように、空間のデザインも木の質感からデザインする。この環境から新しい環境の活用を提案しました。

この家は、二つの環境をひとつの空間としてデザインしました。ひとつは、樹を自然環境として活用すること。ふたつは、一人では実現できない環境をデザインとして創り出すことです。

この家は、建築のなかで最も自然環境に寄り添った設計である。自然環境の中で暮らすことは、健康の維持や心の健康を高めることにつながります。木は、自然環境の中で暮らすための、最も大切な要素です。家から自然環境を近づけることで健康を高め、生活の質を高めるための環境として提案しています。この環境から新しい環境の活用を提案しました。

けやきを囲む「コモン」という考え方。

では、どうやって建築が環境を創るのか？
この家は「木で囲む」といふコンセプトを実現するために、自然環境からデザインされています。まず、自然環境からデザインする。木は、自然環境の中で暮らすための、最も大切な要素です。家から自然環境を近づけることで健康を高め、生活の質を高めるための環境として提案しています。この環境から新しい環境の活用を提案しました。



短評

平面図



「クヌギの家」は、この考え方を自然の中で実現することができるようデザインされています。

- 1・コモンがつくる環境をとりいれるガーデンデザイン**
庭は、家と自然をつなぐ。庭は自然環境からデザインされています。庭は自然環境の中で暮らすための、最も大切な要素です。家から自然環境を近づけることで健康を高め、生活の質を高めるための環境として提案しています。
- 2・自然の力を活かすパッシブデザイン**
自然環境から自然の力を活かす。庭は自然環境からデザインされています。庭は自然環境の中で暮らすための、最も大切な要素です。家から自然環境を近づけることで健康を高め、生活の質を高めるための環境として提案しています。
- 3・自然の力を活かさない高断熱・高気密**
自然環境から自然の力を活かす。庭は自然環境からデザインされています。庭は自然環境の中で暮らすための、最も大切な要素です。家から自然環境を近づけることで健康を高め、生活の質を高めるための環境として提案しています。
- 4・室内環境を調整する自然素材の活用**
自然環境から自然の力を活かす。庭は自然環境からデザインされています。庭は自然環境の中で暮らすための、最も大切な要素です。家から自然環境を近づけることで健康を高め、生活の質を高めるための環境として提案しています。
- 5・将来の暮らしの変化に対応するスケルトン・インフィル**
「スケルトン・インフィル」は、建築を「スケルトン（構造体）」と「インフィル（内装・設備）」とに分けて設計する考え方です。将来の暮らしの変化に対応し、柔軟に環境を調整することが可能です。

住まい手から一言

この環境がとても気に入り、緑に囲まれたケヤキエコヴィレッジに住んでいます。自然を日々感じて過ごす生活っていいなと思います。家と家の境は塀ではなく木が植えられていて、隣の庭の木が見えたりと、とても楽しいです。

講評

ケヤキの木をランドマークシンボルにして囲んだ数戸の木造住宅群が快適な住環境を形成している点が、単体の住宅とは違った面で評価された。スケルトンインフィル（構造材を長寿命に、内装仕上げ材は適宜更新改修する仕組み）を意識したLCCO₂配慮もなされている。

タイトル

エアコンなしで過ごす家



エアコンなしで過ごす家

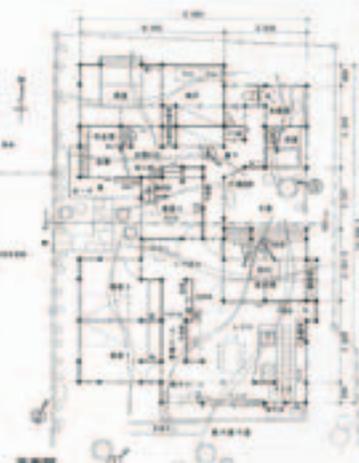
川越市の西側、もともと農家住宅が点在し、この村に静かな緑地帯にこの住宅は建っています。周囲は閑静に緑地帯が多く見られるようになりましたが、比較的民間住宅地と云えます。今の緑地帯は30年代以降、エアコンは一台もありません。2115平方メートルです。平屋ですが、深い軒、夏の暑さを防ぐためです。また、どの部屋も風の通り道を確保するために、プランは自然にこの方向に作り直しました。そして、風の通り道を深く出す事により、風の当たりやすい軒下と裏庭の住み心地はここで十分に確保されています。特に、暑い夏は涼しい風を導くための木の柱、大いかに活用したいのです。また、夏の暑気は自然に消滅させました。内庭への風を取り入れる事も、同じ方向でも、どの部屋からも緑を取り入れる計画は夏を涼しく感じる家といえるでしょう。



窓の開口から入口方向を見る。左側の壁の開口から緑を取り入れる計画。



1階の開口から、中庭方向を見る。緑地帯の開口から中庭を取り入れる計画はここからスタート。



窓の開口から中庭を見る。左側に風を導く計画は、自然に消滅させました。また、夏の暑気は自然に消滅させました。また、夏の暑気は自然に消滅させました。



窓の開口から中庭方向を見る。左側に風を導く計画は、自然に消滅させました。また、夏の暑気は自然に消滅させました。また、夏の暑気は自然に消滅させました。

庭園に行くための通路。緑地帯の開口から取り入れる計画は、自然に消滅させました。また、夏の暑気は自然に消滅させました。

窓の開口から、中庭方向を見る。緑地帯の開口から中庭を取り入れる計画はここからスタート。

窓の開口から、中庭方向を見る。緑地帯の開口から中庭を取り入れる計画はここからスタート。

窓の開口から、中庭方向を見る。緑地帯の開口から中庭を取り入れる計画はここからスタート。

窓の開口から、中庭方向を見る。緑地帯の開口から中庭を取り入れる計画はここからスタート。



この家の家計 概要
 家族構成：5人
 2人組 + 3人組 + 1人組
 建築費：約1,000万円
 構造・築年：木造・1997年
 敷地面積：242.92㎡
 延床面積：125.32㎡
 建築面積：131.03㎡
 完成年月：平成18年10月



データ

- 所在地 ■ 川越市
- 構造・階数 ■ 木造・1階
- 敷地面積 ■ 242.92㎡
- 延床面積 ■ 125.32㎡
- 建築面積 ■ 131.03㎡
- 完成年月 ■ 平成18年10月
- 総工事費 ■ 約 3,050 万円
- 居住者構成 ■ 15歳以上65歳未満:5人
- 設計者 ■ 川崎君子建築事務所 (担当者:川崎君子)
- 施工者 ■ (株)内田産業

住まい手から一言

これから暑い夏が予想されるので、LDKに1台エアコンを付けましょうと設計士さんから提案されましたが、エアコンは要りませんとお願いしました。通風を完璧に考慮したプランと、小さな工夫のおかげで今年で3度目の夏を過ごしましたが、全く問題なく、快適に、どの部屋からも見える緑を愉しみながら過ごしています。

講評 一般投票における最多得票作品。「エアコンなしで過ごす家」は自然に逆らわず暮らしたいという人々の理想がこの住まいに投影され、多くの市民の共感を得たものと思う。平屋建て、深い軒と豊かな緑、そして中庭を囲む住まいは、自然に風を呼び込み、人の心を癒し、「エアコン要らず」を納得させる。

■市街地のサスティナブル住宅



設計者 ■ 小椋 しょうし
 施工者 ■ 近藤建設(株)

■加須の二世帯住宅



設計者 ■ アトリエ・リングー級建築士事務所
 施工者 ■ 岩瀬建設、(株)ネギシ

■望楼の家



設計者 ■ (株)岩村アトリエ
 施工者 ■ 横尾建設(株)

■3つのエコが作り出す環境の相乗効果



設計者 ■ (株)アキュラホーム
 施工者 ■ (株)アキュラホーム

■しらこぼとが訪れる家



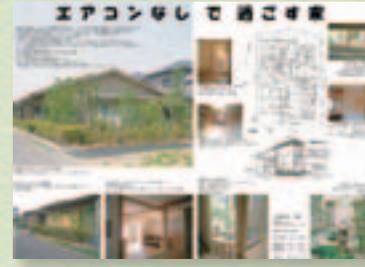
設計者 ■ (株)高砂建設一級建築事務所
 施工者 ■ (株)高砂建設

■自然と暮らすナチュラルモダンライフ



設計者 ■ 形部 浩
 施工者 ■ 富澤 秀敏

■エアコンなしで過ごす家



設計者 ■ 川崎君子建築事務所
 施工者 ■ (株)内田産業

■クヌギの家



設計者 ■ オーガニック・スタジオ(株)
 施工者 ■ オーガニック・スタジオ(株)

■風の抜ける家



設計者 ■ 岡崎 健太郎
 施工者 ■ 積水ハウス(株)埼玉北支店

■MULTI SKIN HOUSE



設計者 ■ 前川亮建築設計事務所
 施工者 ■ (株)山崎工務店

■自然を取り込む春日部の家



設計者 ■ (有)洋和設計
 施工者 ■ 共生建設(株)

■五感が喜ぶ住まい



設計者 ■ ミサワホーム西関東(株)
 施工者 ■ ミサワホーム西関東(株)

●省エネ設備を活用した作品

■ K邸



設計者 ■ 積水ハウス(株)埼玉南支店
施工者 ■ 積水ハウス(株)

■ CO₂45%削減住宅に住まう



設計者 ■ 旭化成ホームズ(株)大宮支店
施工者 ■ 旭化成ホームズ(株)大宮支店

■ 曲り角の家



設計者 ■ 中村 康造
施工者 ■ 山崎工務店

■ 無題



設計者 ■ 大和ハウス工業(株)埼玉支店
施工者 ■ 大和ハウス工業(株)埼玉支店

■ SAKURAGI



設計者 ■ 積水ハウス(株)埼玉南支店
施工者 ■ 積水ハウス(株)

■ 無題



設計者 ■ (株)木立野工務店
施工者 ■ (株)木立野工務店

■ COMMON STAGE TOKIWA No.48



設計者 ■ 牛田 祐介
施工者 ■ 積水ハウス(株)埼玉北支店

■ T邸



設計者 ■ 積水ハウス(株)埼玉南支店
施工者 ■ 積水ハウス(株)

■ O邸



設計者 ■ 池田 健一
施工者 ■ 積水ハウス(株)埼玉支店

■ 無題



設計者 ■ 積水ハウス(株)埼玉北支店
施工者 ■ 積水ハウス(株)埼玉北支店

■ 鎌北建設のエコ住宅



設計者 ■ 鎌北建設(株)
施工者 ■ 鎌北建設(株)

■ 無題



設計者 ■ 石川 徹
施工者 ■ 積水ハウス(株)埼玉北支店

●様々な自然エネルギーを活用した作品

■おだやかで楽しいエコな住まい



設計者 ■ 宮崎均 / REP 研究所
 施工者 ■ 創和建设(株)

■かさの家



設計者 ■ 石井 大・井上 牧子
 施工者 ■ (株)内田産業

■地熱の家



設計者 ■ (株)ムサシノ建設一級建築士事務所
 施工者 ■ (株)ムサシノ建設

■環境にやさしいエコな暮らしの出来る家



設計者 ■ (株)藤島建設
 施工者 ■ (株)藤島建設

■環境配慮と居住快適性を高いレベルで両立させた家



設計者 ■ ポラテック(株)ポウハウス一級建築士事務所、
 (株)ボラス暮らし科学研究所
 施工者 ■ ポラテック(株)

■イタチと棲むイエ



設計者 ■ 中辻正明・都市建築研究室
 施工者 ■ 大原工務所

■地熱の家



設計者 ■ (株)ムサシノ建設一級建築士事務所
 施工者 ■ (株)ムサシノ建設

■うのきの家



設計者 ■ テラモンテ建築研究所
 施工者 ■ 中道木材

■薪ストーブのプロがご提案した家



設計者 ■ 堀 洋和
 施工者 ■ タケミ産業(株)

■環境と共生する住まい



設計者 ■ 岩田 庄司
 施工者 ■ 積水ハウス(株)

■地球にやさしい家



設計者 ■ (株)藤島建設
 施工者 ■ (株)藤島建設

■自然と調和した街づくり



設計者 ■ 大和ハウス工業(株)東京街づくりグループ
 施工者 ■ 大和ハウス工業(株)越谷支店

■環境共生住宅



設計者 ■ 篠原 弘幸
 施工者 ■ 積水ハウス(株)埼玉西支店

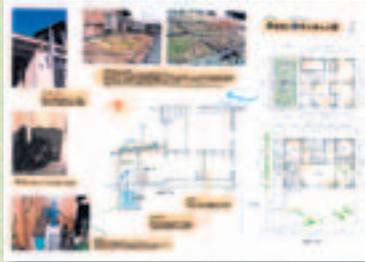
■地球にやさしくできたこと



設計者 ■ (株)藤島建設
 施工者 ■ (株)藤島建設

●緑化や木材利用に配慮した作品

■草屋根と雨水の恵みの家



設計者 ■ レインファーム一級建築士事務所
 施工者 ■ (有)池田建築事務所

■北本の家



設計者 ■ 増田アトリエ
 施工者 ■ (株)辰建匠

■大きな森を支える小さな家プロジェクト



設計者 ■ (株)高砂建設
 施工者 ■ (株)高砂建設

■光と風が気持ち良い木の香りいっぱいの家



設計者 ■ (株)家づくり工房
 施工者 ■ (株)家づくり工房

■越谷ゆいまーる



設計者 ■ (株)中央住宅 (株)ポラス暮らし科学研究所
 施工者 ■ ポラテック(株)

■まるごとサラダの家



設計者 ■ (株)奥山建設
 施工者 ■ (株)奥山建設

■鶴ヶ島のおいしい住まい



設計者 ■ エコ・もの・ファーム(有)
 施工者 ■ エコ・もの・ファーム(有)

■飯能の家



設計者 ■ マツザワ設計
 施工者 ■ (株)内田産業

■優しい木の家



設計者 ■ 八島建築設計室
 施工者 ■ 吉田建築

■無題



設計者 ■ 積水ハウス(株)埼玉中営業所
 施工者 ■ 積水ハウス(株)埼玉中営業所

■上之の住宅



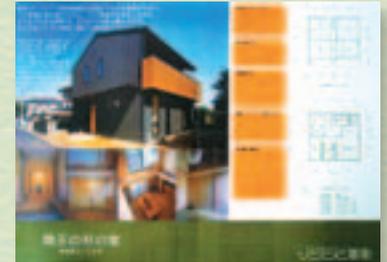
設計者 ■ 森田 万己子
 施工者 ■ (株)エクテス

■角地に佇むコンパクトハウス



設計者 ■ (有)アトリエラピンス建築環境設計
 施工者 ■ (株)榊住建

■埼玉の杉の家



設計者 ■ マツザワ設計
 施工者 ■ 吉田建築

■IM.house



設計者 ■ (有)atelierA5 建築設計事務所
 施工者 ■ 宮建ハウジング(株)

「埼玉県環境建築住宅賞2009(住宅部門)」概要

1 趣 旨

今、地球温暖化防止などに寄与する環境負荷の少ない住まいづくりが求められています。

そこで、環境にやさしい住宅の普及を図るため、工夫やアイデアに富み、居住性に優れた住宅を表彰する制度を創設しました。

2 主 催 埼玉県

3 共 催 埼玉県住まいづくり協議会

4 後 援 社団法人埼玉建築士会 社団法人埼玉県建築士事務所協会 埼玉新聞社

5 対象となる住宅

- (1) 環境にやさしく、居住性に優れた戸建て専用住宅
- (2) 埼玉県内に建てられた住宅の内、平成11年4月1日から平成21年3月31日までの間に完成したもの
- (3) 建築基準法に基づく確認済証を受けた住宅

6 審査委員名簿 (敬称略、五十音順)

委員長／内田 祥士・東洋大学ライフデザイン学部
人間環境デザイン学科 教授

委 員／片淵 重幸・社団法人埼玉建築士会 常務理事

委 員／定行 まり子・日本女子大学家政学部住居学科 教授

委 員／佐藤 啓智・社団法人埼玉県建築士事務所協会 副会長

委 員／外岡 豊・埼玉大学経済学部社会環境設計学科 教授

委 員／宮沢 俊哉・埼玉県住まいづくり協議会 会長

